

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	市誌編さん事業	会計	一般会計	事業No.	772	施策順No.	62-007
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-8-11-4		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	歴史研究所		
施策	62 地域資源の資産化			事業期間	開始	16	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
	意図	飯田市の人口(人) (H21.10.1推計人口)		106630	105691	105036	107000	
	意図	飯田・下伊那の歴史を知る。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	一般向け図書の配布・販売数(単年度)・『みるよむまなぶ…』・『いとなむはたらく…』・『満州移民』・『森本家』等	2757	720	2569	500	2818	500	A
	子ども向け図書の配布・販売数(単年度)『水引のまち飯田』等	128	55	408	200	63	200	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	「本棟造と養蚕建築」刊行等により一般向け図書の配布・販売数が大幅に伸び、市民への研究成果の還元として目標を達成した。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>「単位地域」論に立った地域史の全体史叙述を目標とする永続的な市誌編さん事業に取り組む。資料編ー地域史料編さんを中核として重視し、通史編ー地域史叙述をその延長・成果に位置づける。</p> <p>1 地域史料編さん (1)「単位地域編」 (2)「基礎史料編」 2 地域史叙述 (1)「単位地域」の全体史(「史料で読む」編集・刊行→「史料集」編さん・刊行→「単位地域」の叙述) (2)テーマ史(ア「ジュニアライブラリー」、イ「市民ライブラリー」) (3)飯田下伊那の広域概要史</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<p>1 『飯田・下伊那史料叢書2建造物編1「本棟造と養蚕建築」』刊行 2 聞き書き集の刊行準備、制作活動 3 一般向け図書の刊行準備、制作活動 4 高校の副読本の企画 5 『飯田・上飯田の歴史』(仮題)刊行準備</p>	<p>1 市誌史料編刊行部数 5 編集委員会等の開催</p>	<p>1 600部 5 24回</p>
23年度実施計画	<p>1 『飯田・上飯田の歴史』(仮題)執筆、編集 2 高校の副読本の企画</p>	<p>1 上巻執筆数 下巻執筆数</p>	<p>1 50原稿 50原稿</p>

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金				特定財源内訳、補足事項	(そ) 諸収入459千円、寄附金50千円	
	特定財源	県支出金						
	特定財源	起債						
	特定財源	その他	583	509	900			
	一般財源		2,610	1,819	5,942			
	計(A)	3,193	2,328	6,842				
	正規職員所要時間		2,100					
	臨時職員等所要時間							
	人件費計(B)		7,510					
	トータルコスト A+B		9,838					

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども向け図書(ジュニアライブラリー)1『わたしたちの飯田線』は、市民や議員などから好評を博している。</li> <li>議会から、歴史研究所等で発掘した地域資源は市民にPRしていく必要があると提言されている。</li> <li>外部評価では、計画的かつ着実な史料編刊行、市誌叙述編の構想具体化を提案されている。</li> </ul>
--

**5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】**

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

**6 前期4年間の取組評価(総括)**

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	評価	施策の成果指標又はムトス指標	活用できる状態が整った地域資産の数
		価値が顕在化され高まる。地域資産が認知される。		活用できる状態が整った地域資産の数
				地域資産を知っている市民の割合:%
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	・地域史を知ることができる刊行物の発行により、地域資源の価値を明らかにし、その存在に関する市民の意識を高めた。 ・ジュニアライブラリー「わたしたちの飯田線」の完売		
	後期に向けた課題	・「飯田・上飯田の歴史」(仮題)平成24年度刊行をめざして、執筆・編集活動を進める。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	・学会、各種講座、講演会での研究報告・書籍販売を実施した。 ・「飯田・上飯田の歴史」(仮題)刊行計画策定のため、平成21年度15回、22年度6回の勉強会や庁内調整会議を行った。		
	後期に向けた課題	・「水引のまち飯田」の販売推進 ・「満洲移民」 「わたしたちの飯田線」の増刷		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	・「飯田・上飯田の歴史」刊行に係る編集委員・執筆者の出張旅費に関しては、事前協議を義務付け経費節減について依頼した。また、各種報酬額についても提示した支払額で承諾を得た。		
	後期に向けた課題	・編集、校正課程の一部委託化による効率的な出版活動		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・地域史を知ることができる刊行物の発行によって、地域資源の価値は明らかになり、市民の認知も得られることから、市の関与は適切である。		
	後期に向けた課題	刊行物の販売価格設定		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①飯田水引組合による「水引のまち飯田」編集協力②関係機関への献本による広報 ①全国各地の公的機関、大学及びNPOによる「地域史の現在」編集、刊行②販売協力 ①東京大学日本史学研究室による「清内路 I、II」編集刊行②献本取扱い協力 ①しんきん南信州地域研究所「いいだ・南信州大好き」編集刊行②第4章「歴史」への寄稿・資料提供		
	後期に向けた課題	①都市研究センターによる「ラウンド・テーブル報告集」編集、刊行②販売協力 ①その他の主体による調査研究②情報提供		
全体を通じて	4年間の振り返り	・平成22年度、研究内在型の単位地域の全体史叙述を重視した「飯田・上飯田の歴史」(仮題)の刊行計画を策定し編集・執筆を開始。		
	後期に向けた課題	地道な地域史研究の成果として、後世に伝えるべき活動であるものの、調査研究後の執筆には膨大な時間を要するため、限られた期間内の刊行には困難が予測される。		

**7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認**

事務事業を統合・分割する必要があるかどうか	ない	対象や意図を修正する必要がありますかどうか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますかどうか	ない
-----------------------	----	-----------------------	----	--------------------------	----

**8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画**

<input type="checkbox"/> 完了	<input checked="" type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	--	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------